

企業ステートメント

クラレグループ行動規範

クラレグループ人権方針

トップステートメント

サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画

クラレグループのマテリアリティ

クラレグループのマテリアリティ

マテリアリティ特定手順

Planet

Product

People

ガバナンス

GRIスタンダード対照表 (内容索引)

クラレレポート (統合報告書) / サステナビリティウェブサイト

ランドセルは海を越えて

イニシアティブ

## クラレグループのマテリアリティ

マテリアリティ



マテリアリティ特定手順



### マテリアリティ

クラレグループは自社に関する重要課題をマテリアリティとして特定しています。2019年に以下のとおり、「自然環境の向上」「生活環境の向上」「資源の有効利用と環境負荷の削減」「サプライチェーン・マネジメントの向上」「誇りを持てる会社づくり」の5分野と具体例に見直しました。クラレグループの各組織はマテリアリティの解決に貢献する計画を立案し、それらは各組織の中期経営計画「PASSION 2026」の施策と目標に盛り込まれています。

### クラレグループのマテリアリティ

事業を通じた価値づくり

自然環境の向上	生活環境の向上
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 気候変動対策 (省エネ)</li> <li>- マイクロプラスチック問題の解決</li> <li>- 水と空気の浄化</li> <li>- 生物多様性保全</li> <li>- 次世代用途・製品・技術の開発</li> <li>- サーキュラーエコノミー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 安全・安心な食糧・水の提供</li> <li>- QOL (クオリティオブライフ)の向上</li> <li>- 健康増進</li> <li>- 次世代用途・製品・技術の開発</li> </ul>

基盤強化のための価値づくり

資源の有効利用と環境負荷の削減	サプライチェーン・マネジメントの向上	「誇りを持てる会社」づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>- GHG 排出量削減</li> <li>- 化学物質の排出量削減</li> <li>- 廃棄物の削減</li> <li>- マイクロプラスチック問題への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- サステナビリティプロキュアメント</li> <li>- 製品安全の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 安全活動の推進</li> <li>- 保安防災の強化</li> <li>- スマートワークの推進</li> <li>- ダイバーシティの推進</li> </ul>

### マテリアリティと関連するSDGs

マテリアリティ見直しに伴い、「マテリアリティ特定手順」で示すように、SDGsからもクラレグループが取り組むべき重要課題を抽出しています。

また、それぞれのマテリアリティとSDGsとの関連性を明確にしました。我々のサステナビリティ活動は、クラレグループが貢献すべき重要課題であるマテリアリティの解決を目指して取り組みますが、この関連付けによりSDGsの目標達成にも貢献できると考えます。

### 事業を通じた価値づくり

自然環境の向上		生活環境の向上	
 <p>6.3</p>	2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物質・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。	 <p>3.8</p>	全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保護サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を達成する。
 <p>13.3</p>	気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。	 <p>6.a</p>	2030年までに、集水、海水淡水化、水の効率的利用、排水処理、リサイクル・再利用技術を含む開発途上国における水と衛生分野での活動と計画を対象とした国際協力と能力構築支援を拡大する。
 <p>14.1</p>	2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。	 <p>12.3</p>	2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。
 <p>17.16</p>	全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。	 <p>17.17</p>	さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

### 基盤強化のための価値づくり

資源の有効利用と環境負荷の削減		サプライチェーン・マネジメントの向上		
 <p>3.9</p>	2030年までに、有害な化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。	 <p>6.3</p>	2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物質・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。	
 <p>9.4</p>	2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。	 <p>13.3</p>	気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。	
 <p>12.4</p>	2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。	 <p>14.2</p>	2020年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性(レジリエンス)の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。	
 <p>12.5</p>	2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	 <p>17.16</p>	全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。	
 <p>8.7</p>	強制的労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終わらせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。		 <p>17.17</p>	さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。
		「誇りを持てる会社」づくり		
		 <p>5.1</p>		あらゆる場所における全ての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。

## ステークホルダーとの関わり

クラレグループの企業活動は、お客さま・消費者、株主・投資家の皆さま、調達先・協業先、社員、そして地域社会や行政など、多くのステークホルダーとの関わりによって成り立っています。クラレグループはマテリアリティの解決に挑むにあたり、ステークホルダーとの対話と協働を一層深め、企業活動の充実を図ります。

ステークホルダーとの対話と協働 (2020~2022年はCOVID-19感染拡大により、以下の一部について中止または手法を変更して実施しました。)	
株主・投資家	株主総会、事業所見学会 (IR)、決算説明会、クラレレポート、サステナビリティウェブサイト
調達先・協業先	購買活動、安全協議会、連絡会、調達先のサステナビリティ評価等

社員	グローバルエンゲージメントサーベイ、労使協議、安全衛生協議会、人事評価面談、社内報、研修、行事／イベント等
地域社会	地元自治会との意見交換会、工場見学会、少年少女化学教室、観桜会／夏祭り／クリスマスファンタジー等
行政・NPO/NGO	工場見学、消防訓練、ボランティア活動等
お客さま・消費者	営業活動、展示会、ウェブサイト、アンケート等